

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870701113		
法人名	医療法人社団 董会		
事業所名	妙法寺すみれホーム		
所在地	兵庫県神戸市須磨区妙法寺字萬上畑742-2		
自己評価作成日	令和 4年 5月 27日	評価結果市町村受理日	令和4年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_pref_topjigvosvo_index
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和4年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がいきいきと生活が送れるよう笑顔の絶えないケアを目指しています。また、今まで以上に職員のレベルアップを目指し、質の良いケアを行いたい。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初は地域との接点がなかったが、徐々に地域に開かれ、それとともに地域行事や住民との相互交流が広がってきていたところ、この新型コロナ感染拡大により地域との関わりが閉ざされてしまったことは、非常に残念である。職員自ら理念に掲げ、地域交流を大切にしてきたことで利用者のその人らしい、役割をもったいきいきとした暮らしを支えてきた。現在、利用者は外出がままならないなかであっても、これまで通りの生活を送っている。職員は、室内での行事やお楽しみの機会を工夫するなど、笑顔が絶えない何気ない日常を大切にしている。管理者は、新型コロナというこれまでにない感染対策で得た経験と併せ、職員の多くが入れ替わった体制を踏まえ、今ある理念を再考し、さらに利用者と家族の安心、職員が働きやすい職場環境を目指そうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りの際に職員から募集して決定した理念を唱和している。この理念は入り口や各フロアーに掲示して全職員がいつでも見られるようにしている。	理念を定期的に振り返ることはないが、ケア方針を検討するなど折に触れ職員に投げかけ、再確認できるよう努めている。そのなかでも、その人らしい役割を尊重していくことを大事にしている。職員の入れ替わりを機に、改めて理念の再考を検討している。	職員が定期的に理念を振り返ることができる機会が必要ではないだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りなどに参加したり、トライやるウィークや介護実習生の受け入れなどを行っていたが、コロナの影響により参加出来ていない。	地域行事等の開催中止が続いており、参加交流は行えていない。外部からの訪問が難しい状態のため、定期的な音楽療法士の訪問も、感染状況によっては実施できないことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用して地域の方からの疑問や質問に答えてきたが、コロナの影響により実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナの影響により開催出来ていないが、文章を郵送してホームの現状や行事、お知らせ、事故やヒヤリハットも報告している。	現在まで対面での開催が行えず、書面での報告にとどまっている。運営推進会議のメンバーだけでなく全家族にも送付し、近況を報告している。他グループホーム管理者や地域包括からは質問や意見をもらうこともあり、情報交換している。	ヒヤリハットや事故報告の際は、その後の対応や改善策も併せて報告されたほうがいいのではないか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通じて関係づくりに努めているが、現在はコロナの影響により開催出来ていない。	必要な事務連絡や情報等は随時、メール等で連絡があり、その都度やり取りしている。コロナ感染関連の情報など、参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のフロアー会議で身体拘束廃止委員会を開いたり定期的に職員研修を行っている。	定例のユニット会議やリーダー会議等で、身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会を行っているが、記録の確認が出来なかった。センサーマットの活用状況や廃止のタイミングの見極めなどを検討し、常態化しないように努めている。	身体拘束廃止委員会及び虐待防止委員会独自の議事録、または記録の整備を進めていただきたい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に高齢者虐待防止研修を行うとともに、不適切ケアについても細かく指導している。	研修では、声かけの仕方に関することがよくあがり、職員間で再確認するようにしている。指示的な声かけがあった場合は、その都度職員間でサポートしたり、注意し合うよう努めている。管理者は、定期的な職員との面談は行っていないが、時間をみて個別に話す機会を持っている。	以前実施していた法人のストレスチェックシートの復活を考えてはいかか。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいることから、権利擁護の研修の開催を検討している。	パンフレットは常備しており、必要に応じて配布したり、情報提供することはあるが、職員全員でのまとまった学びの場は持っていない。外部にこだわらず、内部での研修の場を検討したいと考えている。	会議の時間を活用したり、内部で講師役を作るなど学びの場を工夫していただきたい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームとして出来る事と出来ない事をしっかりと説明し、疑問点や不安な事があればしっかりと話を聞いている。	医療的行為が常時できないことだけでなく、グループホームの良さである小規模で家庭的なこと、生活であるからこその些細なリスクの可能性、など納得をしてもらえるように説明している。費用面に関しては、特に具体的に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年開催していたが、コロナの關係で開催できていないが、家族からの希望や要望があれば反映できるよう努めている。	毎月のお便りや写真を通じて、利用者個々の様子を伝えている。要望があれば、玄関のガラス越しでの対面により話しをしてもらう。個々に電話でやりとりすることもあるが、意見などがあがることは少ない。	家族の訪問は困難な状況ではあるが、意向や意見を吸い上げるアンケートのようなものでも、検討できないだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りなどで職員から提案があったり物品の購入などの希望があり、対応している。	リーダー会議やユニット会議を通じて、職員からの意見や提案を引き出すようにしており、その都度、検討、反映している。管理者は、より積極的、主体的な意見等が出るよう職員の意識が今以上に向上してほしいと期待している。	職員から主体的積極的な意見があがるような場やシステムを検討されたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の労働時間を配慮したり、管理職手当や、処遇改善手当などの手当がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での研修、定期的に行うホーム内での研修を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議、グループホーム連絡会、グループホームリーダー会議などで情報共有してしたが、コロナの影響により現在は開催を延期している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたら職員が積極的に話しかけて困っている事や要望などをお聞きして不安な気持ちを取り除くように務めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームを見学された後に、現在何に困っているのかをしっかりと聞き取りするようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りをする中で他のサービスの可能性を含めて必要な支援の情報提供を行うこともある。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において調理や掃除、洗濯など手伝って頂ける家事があれば積極的に声掛けをして一緒に行っている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に極力会って話をして頂いている。少し前までは家族も行事に参加して一緒に楽しんでいた。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出は出来ていないが、家族や友人から電話があれば本人に話してもらっている。年賀状や手紙が届いたら返事を書いて頂けるよう支援している。	家族や友人などとの交流やふれあう機会は持てていないが、電話や手紙を通じたやりとりはできるだけ継続できるよう努めている。職員は室内で行う敬老会やクリスマス会などの行事を盛り上げ、少しでも楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士を同じテーブルに座って頂くなど工夫をしている。関係性が悪い利用者同士だと席を離している。		
22			○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後にも相談を受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から意向を伺ったり、職員同士で会議の際に話し合うなど情報の共有に努めている。	日々の生活の中での利用者間の会話や様子、個別の対話から想いや意向を汲み取っている。把握した情報は記録し、食べたい物の要望は可能な範囲で反映して、職員間で情報共有している。家族からの情報も参考にしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に昔の自宅での様子や趣味や嗜好品などを聞いて可能であればケアプランに取り入れるようにしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の利用者の状態を観察し、変化があれば柔軟に対応している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員が利用者を数名ずつ担当し、3か月ごとのモニタリングをケアマネジャーと行っている。本人と家族の意向を受け入れて介護計画作成に努めている。	利用者自身の思いやしたいことを掲げ、日々の様子や心身状況を参考にその人に寄り添った介護計画を作成している。担当職員が定期的にモニタリングを行うことで、その人の今の状況を把握、共有している。利用者の体調や表情の変化には常に注意し、状態把握に努めている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテに様子を記入している。連絡ノートを使用したりカンファレンスを行い議事録を確認してもらうなど情報を共有できるよ工夫している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアを利用している利用者があるが現在コロナの影響によりデイケアは中止している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響により地域のイベントや行事には参加出来ていない。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院がある利用者については家族に協力して頂いて受診して頂くなどの対応をしている。	ほとんどの利用者は、法人の医療機関をかかりつけ医にしている。月に2回の訪問診療と、訪問看護により健康管理体制ができています。定期的な訪問歯科医により、口腔ケアも受けている。他科受診は、基本家族の付き添いで行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回の訪問看護を受けたり、状態に変化が見られた場合は訪問看護ステーションに連絡して助言をもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の医療機関と業務提携をおこなっており、入退院の際は情報共有を行っている。	法人の医療機関に入院する事もあるが、状況により紹介状にて別の医療機関に入院する事もある。その際、生活状況を伝え入院中の様子を聞き、退院に向けた情報提供を受けている。数か月前骨折で入院した利用者が、退院後も痛みを訴えていたが、居室変えをして職員のケアが行き届き安心感からか、現在は歩行ができるようになってきている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新規入居時に「重度化した場合の治療方針」について家族から同意をもらっている。利用者の状態については変化があれば家族に連絡している。	延命治療や救急救命について説明し同意書をもらっている。基本、看取りは出来ない事は口頭で伝えており、重度化した場合は早めに他事業所を紹介している。看護師が緊急時対応マニュアルの確認や、AEDの使用法、骨折等の対応方法の研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての職員研修を行っている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている他に、非常用の糧食と真水の備蓄をしている。	年に2回の避難訓練を実施しており、夜間想定訓練をする事もある。水害時等の避難は移動が困難なため2階へ垂直避難をする事を職員に周知している。災害時の水や食料は確保しているが、非常用持ち出し文書の作り替えの必要があると管理者は思っている。地域に訓練時の呼びかけ等はしていない。	できるだけ早期に、入所者の持ち出しに必要な書類の更新をして欲しい。 訓練前に、地域住民に予告をする仕組みを作られてはいいかがか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と呼ぶときは苗字に「さん」を付けて呼ぶことを徹底しており、トイレの際も小さな声で誘導している。	利用者への声掛けは丁寧語で対応している。医師の診察時は応接室にて行い、脱衣室には鍵をかけ、他者が入れない工夫をしている。虐待防止委員会を中心に不適切な言葉の注意点等を話し合い、相互に注意し合える関係性作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が利用者と毎日会話をしてコミュニケーションを取っており、話の傾聴に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の離床時間を本人希望により調整したり、入浴日を変更するなど個人のペースに合わせる工夫を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面台に座って頂き自分で顔を洗ったり櫛で髪を整えたりしている。着替える際は利用者に服を選んでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が見守りを行い、食材を切ってもらったり味見をお願いしたり、盛り付けを手伝って頂いている。	業者作成のメニューに沿った食材が届き、ユニットで調理している。刻み食は事業所ですが、ムース等は別の業者から調理済みが届く。利用者は盛り付けなどの出来る事を手伝っている。食事後のトレイ拭きやテーブル拭き等をしている利用者もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎日記録し、水分補給も職員が毎回促して健康管理をしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に洗面所で歯磨きをして頂き、不十分な場合は職員が介助を行っている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して排泄パターンを把握し、汚染しないよう極力トイレで排泄出来る様声掛けを行って誘導している。	半数以上が排泄が自立しており、フロアのトイレに自由に行っている。声掛けや誘導が必要な利用者も2割程度あり、数名は昼夜共おむつ使用者であり定時随時に交換している。排泄の失敗があった利用者の、体調に応じた居室変更をして失敗の回数が減った事例がある。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、ヨーグルトや牛乳を召し上がって頂いたり、毎日リハビリ体操などの軽い運動をして便秘改善の工夫を行っている。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望により入浴日を変更したり、自身が好んで使用している入浴剤やシャンプーを使っている利用者もおられる。	入浴は、曜日を決めずに週に2～3回を目安に声を掛け入浴している。入浴を受け入れない利用者には、臨機応変に対応し無理強いないよう心掛けている。好みのシャンプーや石鹸を使用している利用者もある。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日職員がコミュニケーションを取っており、食後には臥床時間を設けたりと、ゆっくり休んで頂けるよう支援を行っている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬の説明書を入れて、職員全員が把握できるようにしている。症状に変化が見られた時は主治医に報告している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ダンスの先生だった利用者と一緒に踊ったり、歌が好きな利用者と一緒に歌ったりしている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来ていないが、企画を立てて室内で様々なイベントを行っている。食事も季節を感じて頂ける物を用意して召し上がって頂いたりしている。	コロナ感染拡大防止の為、病院受診以外の外出は控えている。天気の良い日は、事業所の敷地内を散歩したり花壇を見たりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が出来ていない状態が続く、利用者がお金を支払う機会は無くなっていくが、コロナが落ち着けば職員付き添いで買い物に行って頂き、支払いをしてもらうなどを検討している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から連絡があれば電話に出てもらい話してもらったり、手紙が届いたら本人に渡して返事を書いて頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者手作りのカレンダーを置いたり、フロアや廊下には季節を感じられる制作物を展示している。	明るく広いフロアで利用者はそれぞれの事をして過ごしている。職員は対面式のキッチンで、利用者が出て来る事を見守りながら、一緒に調理している。洗濯たみが得意な利用者は自主的に行っている。利用者は職員の支援を受け廊下の壁を装飾したり、四季の花を花瓶にさし季節が感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアに共用スペースとしてソファを設置しており、そこで寛いで頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身が今まで使用していたタンスやベッド、テレビなどを持ち込んで使っている。	表札には番地を付け、利用者個々の物を飾り付け、自室が分かりやすい工夫をしている。事業所から、ベッド、洗面台、エアコン、整理ダンス、電灯、カーテン等が用意されている。利用者は使い慣れた筆筒や、テーブル等を持ち込み好みの空間を作っている。フロアには湿温度計を置いているが居室にはない。	湿温度計を居室にも設置されてはいいかがか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計をフロアに設置して時間を認識してもらったり、トイレに紙を貼って表示している。		

(様式2)

事業所名: 妙法寺すみれホーム

目標達成計画

作成日: 令和4年11月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 (1)	ホーム理念を職員ひとり一人から意見を聴取し、新しい理念を作成し、朝礼や終礼時に唱和しているが、理念について理解しているか実践ができているかは確認できていない。	職員ひとり一人が理念に対して考え、振り返る機会を設ける。	会議などで、理念について議題を出し、理念と今行っているケアを振り返る機会を設ける。	6ヶ月
2	4 (3)	運営推進会議の報告(議事録)で、事故やヒヤリハット報告を行っているが、対策やその後の対応までの記載がされていない。	議事録に対応や対策などまでを記載し、より、家族や地域の方にわかるように記載を行う。	運営推進会議議事録で、事故やひやりハット報告にその後の対応や改善策を記載する。	6ヶ月
3					月
4					月
5					月

(様式3)

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="checkbox"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="checkbox"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="checkbox"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()